

学 習 計 画		(科目名 国語表現)
学 期	学習項目	学習内容・方法
第 1 学期	「逆物語を作ろう」 「日本一短い手紙を書こう」 「絵の情景を詩や文章に表そう」 「歌詞のイメージを文章に表そう」 「まず伝わってこそ文章」 「文章の書き方」 「わかりやすい表現」 「表現の工夫」 「言葉のキャッチボール」 「学校の行事や施設について説明してみよう」	・逆さまに並べられている『鶴の恩返し』の絵を見てその情景を想像し、自己独自の物語を作る。 ・「日本一短い手紙」の特徴をとらえ、形式に沿って、対象への思いを表現する。 ・絵をよく観察して、その想像を膨らませ、情景を詩や文章で表現する。 ・歌詞を読んで得たイメージを物語やドラマとして表現する。 ・わかりやすい文章とは、どのようなものなのか、何を心がければよいか考える。 ・文章の基本的な書き方を理解し、文章を書く。 ・書き上げた文章を推敲して、より良いものにする。 ・意味のわかりにくい文について、なぜわかりにくくなっているのかを理解し、わかりやすく修正する。 ・表現技法とその表現効果について理解し、表現を工夫して文章を書く姿勢を身につける。 ・日常会話の意義について考える。 理想的な会話について理解し、自分の聞き方・話し方を顧みる。 ・身近なものについて説明することの必要性を理解し、実際に説明する文章を書く。
第 2 学期	「理想的な日本語生活を」と情 「手紙の心」 「手紙を書く」 「プレゼンテーションの必要性」 「紹介文・宣伝文を書く」 「二つの言葉が一緒になって」 記録文	・「理の表現と情の表現を調和させる」ことの必要性を理解し、そのためにはどういう言い方をすればよいか、日常の場面に即して考える。 ・本文の例を通して考え、手紙・電話など、各通信手段の長所や短所を理解する。 ・手紙の価値と必要性、手紙の形式をし、実用的な手紙を書く。 ・プレゼンの目的と効果を理解する。 プレゼンの基本的な進め方について理解し、学校生活の中でプレゼンが必要な場合について考察する。 ・紹介文・宣伝文の必要性を理解し、留意点をふまえて、紹介文を書く。書いた文章をもとに発表する。 ・自分の言語生活を見直し言葉を適切に使う姿勢を身につけ、よく似た二つの言葉を混同しておかしな言い方となった例について、正しい表現を理解する。 ・記録文とはどのような文章か、記録文の表現方法を理解し、自分の表現に役立てる。
第 3 学期	「聞き書きを書く」 「方言と共通語」 「意見文を書く」	・取材のしかたをふまえて取材を行う。話し手の雰囲気が出るよう工夫して聞き書きを書く。 ・方言と共通語の特徴を理解する。方言のよさを理解し、方言と共通語を適切に使い分ける態度を養う。 ・意見文を書いたり他の人の発表を聞いたりすることにより、ものの見方や考え方を広げる態度を養う。 意見文の書き方をふまえ、テーマについて自分の意見をまとめて意見文を書く。